

櫛谷七野神社

【平安】

櫛谷七野神社は、皇女がかつて住んでいた地に建設された神道の小さな聖域です。平安時代（794～1185 年）から 1212 年まで、天皇の娘や孫娘、その他の皇族の女性たちが、賀茂神社（都と皇居を災厄から守ると信じられていた重要な神社）で巫女を務めることがありました。櫛谷七野神社は、当時は都から少し離れていましたが、巫女たちはその敷地内にある大きな修道院のような施設に住んでいました。

この皇女たちの住居は、13 世紀に使われなくなりました。京都の大部分を壊滅させた内乱である応仁の乱（1467～1477 年）では、この土地も戦場になりました。

現在、その敷地内にある神社は、16 世紀後半に日本を統一して短期間ながら統治した武将の豊臣秀吉（1537～1598 年）によってこの地に移されました。秀吉は、自身に仕える大名たちに、神社の土台となる石垣を建設するよう命じました。大名たちの家紋は、重なった石の随所に今でも見られます。

この神社には、不貞によって壊れた関係を修復してくれるという評判があります。その元となっている物語は、宇多天皇（867～931 年）が即位していた時代にまでさかのぼります。皇后は天皇が浮気していることに気づき、櫛谷七野神社の氏神に参拝し、夫の愛情が戻ってくるように祈りました。皇后は立ち去る前に、砂を山状に盛りました。伝説によると、この行為により、天皇の寵愛が戻ったと言われています。